

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	受注先との信頼関係の強化と品質の向上に取り組み、安定した受注の確保と新規開拓に取り組んでいます
	内容	事業所では、地域との関係性を大切に、地域にとって必要な社会資源となる取り組みを継続的に実施しています。その結果、安定的な受注先の確保が行え、利用者への継続的な支援を実施しています。コロナ禍の影響により昨年度までは受注量が減少傾向にありましたが、今年度より受注が徐々に回復して、利用者の仕事の量も増えています。今後は、利用者の高齢化や重度化に伴い、利用者が作業できる就労形態もより多様化していくことから、受注先との信頼関係の強化と品質の向上に努め、安定した受注の確保と新規開拓に取り組んでいます。
2	タイトル	限られた期間内で着実にゴールを迎えることができるよう支援しています
	内容	就労移行支援事業所は、2年という限られた期間内で就労を目指すこととなります。そのため、事業所では効率的かつ着実に就職までに必要なスキルを身につけることができるために、就職までに実施する内容と実施期間を明確にした、個別支援計画に基づくスケールマップを作成しています。さらに、目標達成に向けた習熟度をチェックリストで、対人技術・働く意欲・職業適性等の達成度を確認しています。加えて市役所での実習体験や模擬面接など、様々なメニューの習得、就労定着支援の実施により、一定の就労者を輩出することができています。
3	タイトル	利用者の状況に合わせた活動の場を各階で設けることで居場所作りが行えています
	内容	就労継続支援B型事業所では1階と2階で活動の場を設定しています。各階メンバーは固定化し、障害特性を考慮した構成となっていますが柔軟に変更は可能です。各階で行う活動内容に違いを持たせることで、利用者がストレスなく自身にあった活動を行うことができます。また、固定化されたメンバー構成であるため、お互いの関係性も深めることができます。年に1回行う旅行も各階ごとに実施することができました。利用者の状況を把握し日頃の支援を行うため、各階で環境を整えることができている成果が、利用者の居心地の良さにつながっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	生活マップのあり方を検討し、統一した見解と使用の仕方を原点に戻り見直されることを期待します
	内容	法人で共有して使用している生活マップは本人と家族に作成を依頼し、利用者の関係する機関や連絡先などを記載してもらいます。書式は法人で統一されており、長年使用されている生活マップですが、最近では類似の書類などもあり、あまり活用されていない現状もあるようです。生活マップは利用者の生活を支える意味でも必要な書式であると思われます。文書管理の観点からも本来の活用の仕方や必要とされる書式であるかといったことを検討する必要があるかと思われます。各事業所で意味のある書式であることと位置づけ、対応されることを期待します。
2	タイトル	工賃の説明が全ての利用者にとってわかりやすく、モチベーションの向上につながる取り組みが期待されます
	内容	事業所の工賃の仕組みは、その月の収入に応じて時給単価を変えて行く変動性が採用されており、評価は身体や障がいの特性が異なっていることが通常であることから、利用者全員同額の時給単価としています。このことから、毎月時給単価が変動するため、利用者への説明と計算根拠が求められています。利用者への説明は、時給単価の構成は生産量によって売上高が変動することから、利用者の頑張りに結びつくよう、すべての利用者にとってわかりやすいイラストなどを活用し、利用者が納得しモチベーションの向上につながる説明や取り組みが期待されます。
3	タイトル	ICTの活用により記録の効率化や記録の保全など、多くのメリットが期待されます
	内容	事業所では、サービス提供記録やケース記録をはじめとする記録が記入され、書類の保管も定められたルールのもと適切に管理されています。しかし、記録類はPCや手書きで作成されており、類似する記録を複数の書式に書かなければならず、データの共有化や記録の一元管理がしにくい状況にあることがうかがえます。利用者に関する個人記録は情報システムなどを活用により、情報の一元管理、情報の共有化、セキュリティによる個人情報の保護、電子媒体による記録の保全、データベースの活用など、多くのメリットを利用することが期待されます。